

“はかる”技術で未来を創る

株式会社 東陽テクニカ

2019年9月期 第3四半期
決算補足説明資料

2019年7月30日

決算概要

受注動向

／第2四半期に引き続き、好調に推移

受注高 201.7億円
前年同期比 +33.8億円 (+20.2%)

**5Gビジネス
大型試験装置の複数受注**

**JAXA衛星関連
大型プロジェクトの受注**

※5G(第5世代移動通信システム)は、第2四半期に引き続き
第3四半期も受注獲得。
JAXA衛星関連は第2四半期に受注済み。

2019年9月期第3四半期の受注トピックス

【国内】

5Gビジネス大型試験装置

通信関連メーカー向け 受注高 4.8億円



ハブ結合式シャシダイナモメータシステム

自動車関連メーカー向け 受注高 1.5億円



【自社製品・米国初受注】

“SYNESIS”100GEパケットキャプチャシステム

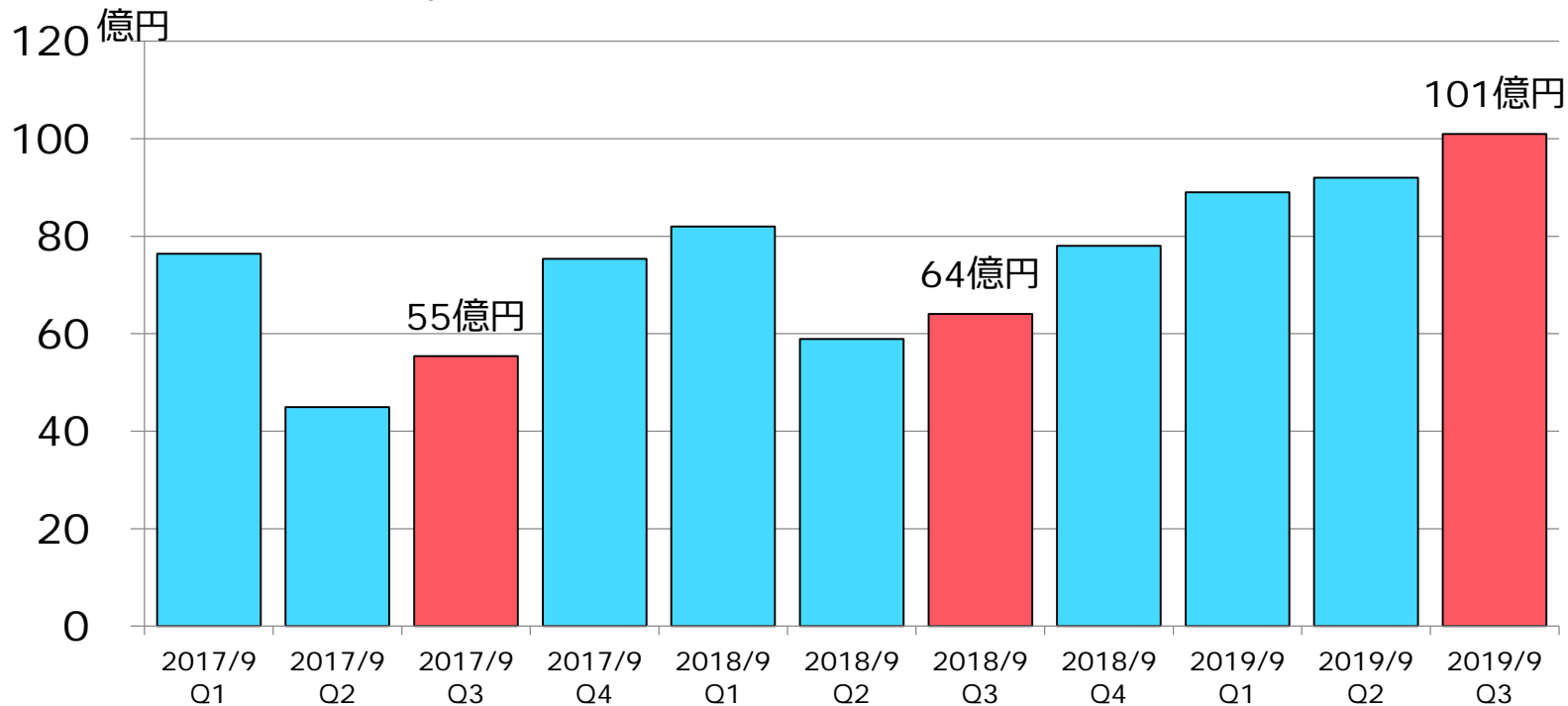
米国国立研究所向け 受注高 18百万円



受注残の状況

5Gの複数受注と衛星関連の受注により、大きく増加
受注残高 101.0億円
前年同期比 +37.0億円 (+57.8%)

※5Gと衛星関連の受注案件は、2019年9月期第4四半期から来期以降にかけて順次納入予定



業績サマリー

前年同期比 増収も減益

四半期純利益が大きく減少しているのは、前年同期に特別利益にて、投資有価証券売却益3.7億円を計上したため。(当四半期は0.5億円)

	2019/9 Q3	構成比	2018/9 Q3	構成比	増減額	増減率
売上高	179.6億円	100.0%	179.1億円	100.0%	+0.4億円	+0.2%
売上総利益	80.2億円	44.7%	81.1億円	45.3%	△0.8億円	△1.1%
販売費及び 一般管理費	67.2億円	37.5%	66.7億円	37.2%	+0.5億円	+0.9%
営業利益	13.0億円	7.2%	14.4億円	8.1%	△1.4億円	△10.1%
経常利益	13.0億円	7.2%	14.2億円	8.0%	△1.2億円	△8.6%
四半期純利益	8.4億円	4.7%	12.0億円	6.7%	△3.5億円	△29.7%

セグメント別の業績

2019年9月期第3四半期

	情報通信/ 情報セキュリティ	機械制御/ 振動騒音	物性/ エネルギー	EMC/ 大型アンテナ	海洋/ 特機	ソフトウェア 開発支援	ライフサイエンス/ マテリアルズ	全社	合計
売上高	44.1億円	45.5億円	33.2億円	21.4億円	11.4億円	10.3億円	13.4億円	—	179.6億円
セグメント 利益	2.2億円	9.7億円	4.1億円	△0.1億円	2.8億円	1.5億円	0.5億円	△7.9億円	13.0億円

2018年9月期第3四半期

	情報通信/ 情報セキュリティ	機械制御/ 振動騒音	物性/ エネルギー	EMC/ 大型アンテナ	海洋/ 特機	ソフトウェア 開発支援	ライフサイエンス/ マテリアルズ	全社	合計
売上高	37.5億円	44.7億円	31.5億円	25.1億円	17.7億円	11.2億円	11.1億円	—	179.1億円
セグメント 利益	△0.3億円	10.4億円	5.0億円	0.1億円	5.4億円	2.8億円	△0.2億円	△8.7億円	14.4億円

前年同期増減

	情報通信/ 情報セキュリティ	機械制御/ 振動騒音	物性/ エネルギー	EMC/ 大型アンテナ	海洋/ 特機	ソフトウェア 開発支援	ライフサイエンス/ マテリアルズ	全社	合計
売上高	+6.5億円	+0.8億円	+1.7億円	△3.7億円	△6.3億円	△0.9億円	+2.3億円	—	+0.4億円
セグメント 利益	+2.5億円	△0.6億円	△0.8億円	△0.2億円	△2.6億円	△1.3億円	+0.7億円	+0.7億円	△1.4億円

セグメント別の状況説明

情報通信／情報セキュリティ

第2四半期に引き続き、5Gの大型試験装置を複数受注。主力のキャリア向けネットワーク機器性能試験装置、自社製品SYNESISの販売が好調。情報セキュリティのビジネスについては立ち上げ中のため、引き続き経費が先行。

機械制御／振動騒音

センサーの新規事業の販売が好調。自社開発中の自動運転車両向け開発支援システムの開発や米国事業立ち上げのために経費が増加。

物性／エネルギー

自動車向け次世代電池やパワーエレクトロニクスの評価システムの販売が堅調。電池の基礎研究分野向け自社開発システムの販売も順調。米国での新規ビジネス立ち上げなどの経費が増加。

EMC／大型アンテナ

主要顧客である国内外の自動車関連市場への受注が継続して堅調。顧客の都合(設置場所など)により複数の大型システムが納入遅延し売上が減少。受注残が大幅に増加。

セグメント別の状況説明

／海洋／特機

製品のコモディティ化による価格競争の激化、前期にあった大型システムの販売が今期には無かったこと、一部の製品の納入が遅れたことにより売上が大幅に減少。一方、防衛省向けの受注が好調だったため受注残が大幅に増加。

／ソフトウェア開発支援

主力の静的解析ツールやセキュリティ脆弱性検査ツールの販売が堅調に推移したが、延期となった案件もあり、売上は若干の減少。仕入コスト増により営業利益が低下。

／ライフサイエンス／マテリアルズ

医療機関向けの画像診断システムや国内医療機器メーカー向けOEM製品、電子顕微鏡などの売上が順調に推移。立ち上げ中の新しい電子顕微鏡ビジネスは、第4四半期から素材開発業界を中心に受注を見込む。

配当について

【利益配分に関する基本方針】(2015年9月期より実施)

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営施策と考えており、健全な財務体質を維持することを前提に、配当性向の下限を連結当期純利益の60%程度とし、経営環境を勘案した積極的な配当を行ってまいります。一方で、資本効率の向上のために自己株式の取得を適宜検討してまいります。

【当期の配当】

(円/株)

2019年 9月期	中間	期末	年間
	12	20	32

※第2四半期にて、当初の配当予想から2円増配(期末18円⇒20円)

2019年9月期通期業績予想

通期業績予想変更なし

	2019年9月期 第3四半期実績 (A)	2019年9月期 通期業績予想 (B)	差額 (B)-(A)	前期実績
売上高	179.6億円	240.0億円	60.3億円	235.9億円
営業利益	13.0億円	15.0億円	2.0億円	14.2億円
経常利益	13.0億円	15.0億円	1.9億円	14.4億円
四半期(当期)純利益	8.4億円	11.0億円	2.5億円	12.2億円
一株当たり純利益	34.31円	44.92円	—	49.38円
年間配当	—	32.00円	—	30.00円

APPENDIX

会社概要

会社概要

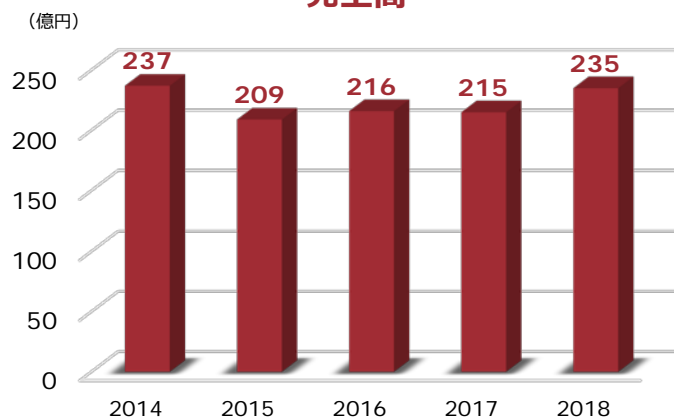
商号	株式会社東陽テクニカ	資本金	41億5,800万円		
英文商号	TOYO Corporation	従業員数	521名(連結) / 487名(単体) *2018年9月30日現在		
代表者	代表取締役社長 五味 勝				
本社住所	東京都中央区八重洲一丁目1番6号	上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部	コード	: 8151
設立	1953年9月4日	Webサイト	https://www.toyo.co.jp/		

役員

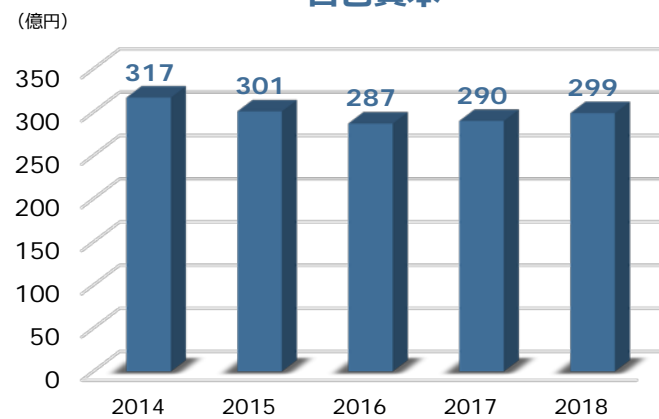
代表取締役社長	五味 勝	社外取締役	秋山 延義
常務取締役	十時 崇蔵	社外取締役	大久保 信行
常務取締役	高野 俊也	常勤監査役	野崎 一彦
取締役	加藤 典之	監査役	森川 紀代
取締役	小野寺 充	監査役	堀之北 重久
取締役	熊川 靖		

財務推移

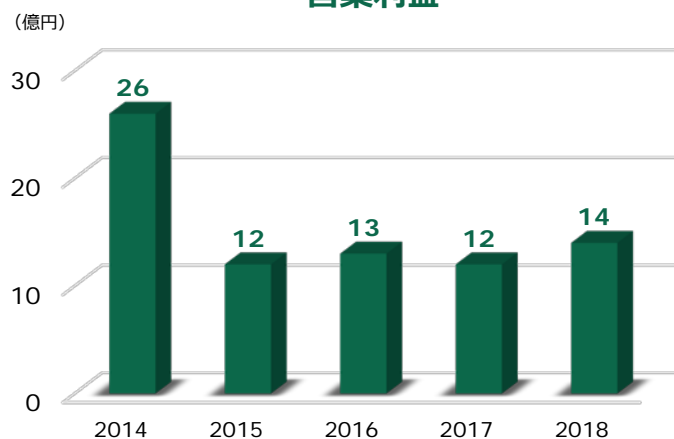
売上高



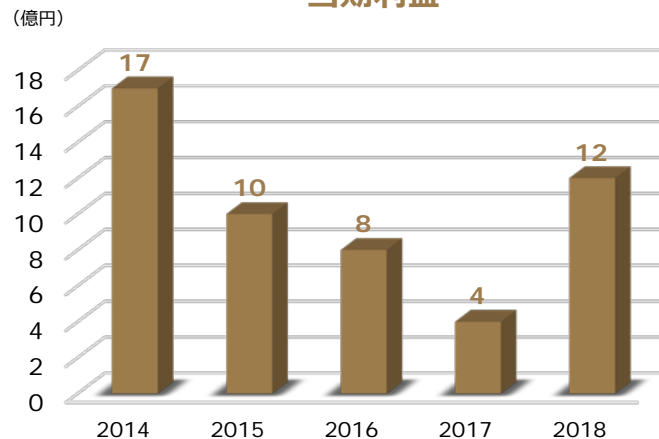
自己資本



営業利益



当期利益



(事業年度：10月1日から翌年9月30日まで)

企業理念

“はかる”技術で未来を創る

はかる技術のリーディングカンパニーとして、豊かな社会、人と地球に優しい環境創りに貢献する

テクノロジーインターフェース

最先端の計測ソリューションを世界の産業界に提供し、技術革新を支援・促進する

企業価値の向上

計測システム・製品・サービスを創造し続けることで企業価値を向上させ、ステークホルダーと社員に繁栄をもたらす

行動指針

- | | |
|--------------|----------------------------|
| プロフェッショナルであれ | 誠実に物事に取り組み、品位と能力の向上に努める |
| イノベーターであれ | 柔軟な発想と勇気を持って、新しい技術や事業に挑戦する |

当社の事業特性

事業内容

海外の高性能、最先端の計測ソリューションを研究開発市場へ提供する

ビジネスモデル

- ・研究開発市場に特化
- ・販売後は手厚い技術サポートを提供
- ・カスタマイズにより価値を付加

ニッチ市場
高利益率

Biomation社製ロジックアナライザ
(1976年発売)



東陽テクニカ製パケットキャプチャ
(2015年発売)

“はかる”技術で、未来を創る。

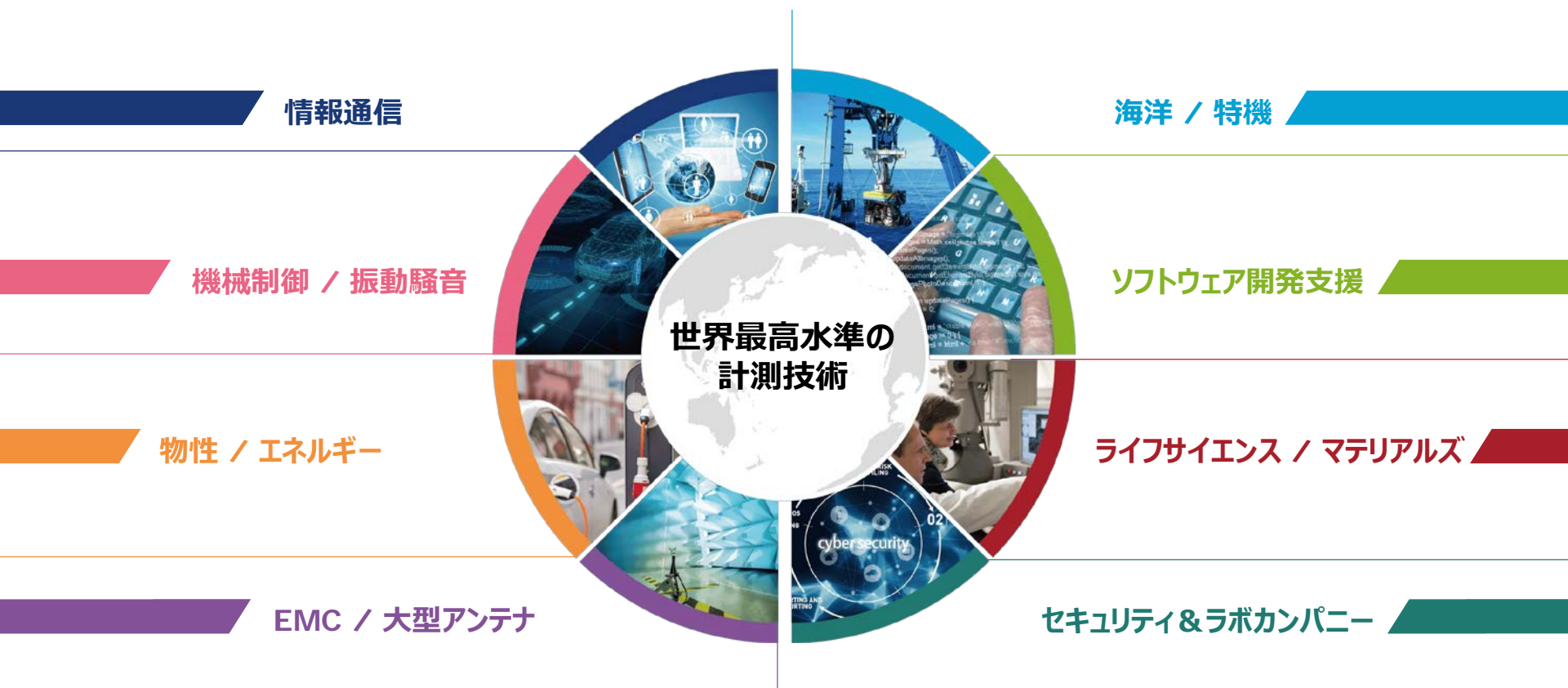
世界最高水準の“はかる”技術

- ／ あらゆる分野における最先端計測機器・技術を提供
- ／ 自社開発製品・サービスによる新たな価値の創出
- ／ 日本国内だけでなく世界のマーケットへ向けてビジネスを展開

代表取締役社長 CEO
五味 勝



あらゆる分野で活躍する、東陽テクニカの“はかる”技術



自社開発 / カスタマイズ

- 最先端計測機器の輸入事業を通じて蓄積したノウハウをもとにしたオリジナル製品の開発
- 海外メーカーの先進計測機器のカスタマイズ
- 異なる製品や技術を組み合わせて高度な計測ソリューションを実現

主な開発製品

パワーブースター

比抵抗 / ホール効果測定システム

強誘電体特性評価システム

燃料電池評価システム

二次電池特性計測システム

多チャンネル自己放電評価システム

矩形波インピーダンス測定システム

インピーダンス解析支援ソフトウェア

液晶材料評価システム

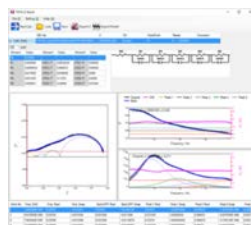
モータトルク自動測定システム

車載型ブレーキ解析装置

DDoS対策システム



強誘電体特性評価システム



インピーダンス解析支援ソフトウェア



多チャンネル液晶材料評価システム

ワン・テクノロジーズ・カンパニー



東陽テクニカの持つシーズをベースとした新製品開発と新規事業立ち上げを担う社内カンパニーです。
“はかる”技術を追求し、テクノロジーイノベーターとして世界で“オンリーワン”、“ナンバーワン”の革新的な製品とソリューションを提供しています。

<https://www.toyo.co.jp/onetech/>



主な開発製品

パケットキャプチャ / 解析システム

EMI自動測定ソフトウェア

イミュニティ自動測定ソフトウェア

不純物イオン測定装置



パケットキャプチャ / 解析システム「SYNESIS」



イミュニティ自動測定システム

技術研究所



自動運転に代表されるような、異なる分野の技術を組み合わせることで新たな価値を生み出す技術の複合化・融合化へのニーズに応え、時代を先取りした新しい技術を創り出します。

テクニカルリサーチラボ

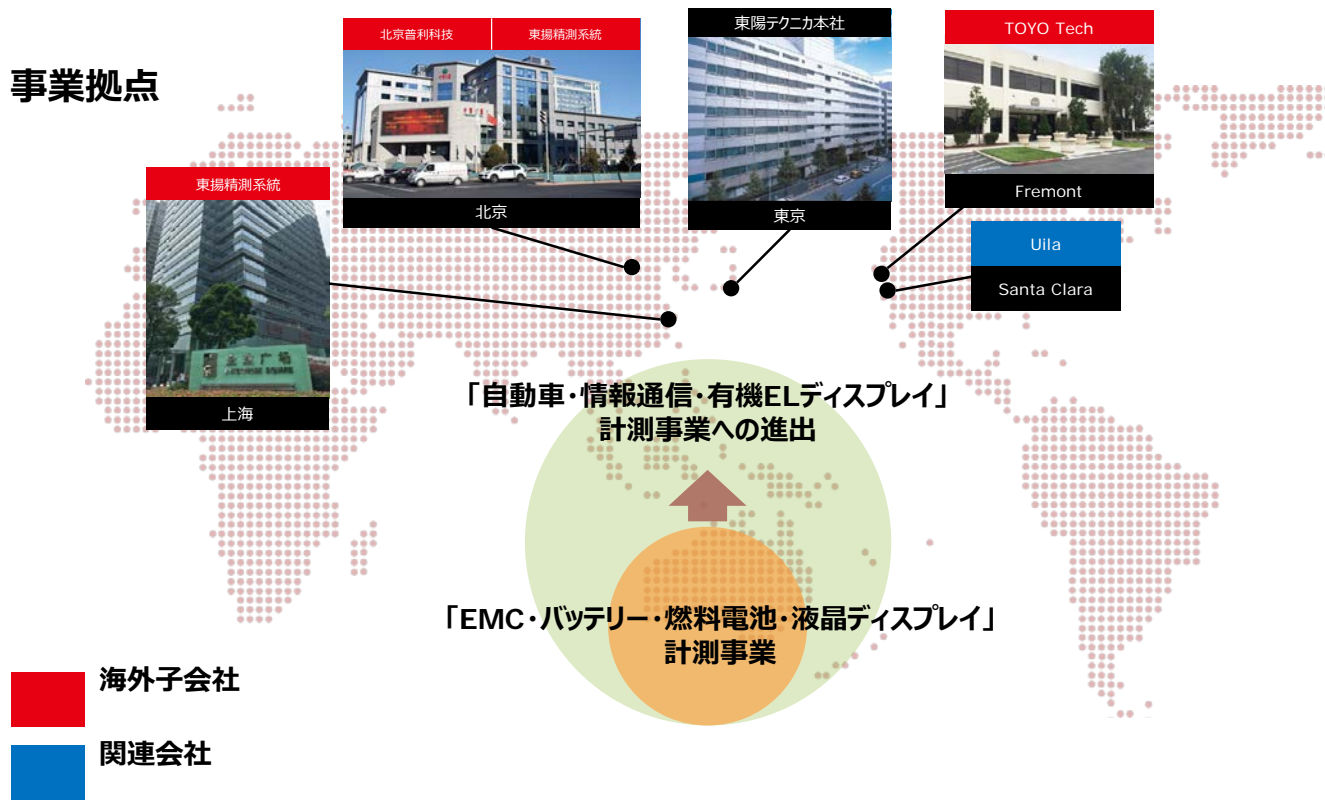
最新技術の研究や製品のデモンストレーションなどを行うオープンラボ。最先端の計測ソリューションを身近に体感できます。



テクニカルリサーチラボ

グローバルビジネス

世界中のメーカーとのパートナーシップを通じて積み重ねてきた技術やノウハウをもとに開発した、自社オリジナルの計測システムやソリューションを世界のマーケットへ向けて提供しています。



中期経営計画

当社グループでは成長市場における業容の拡大と、
環境変化に影響を受けない新たな事業モデルの確立を目指し、
成長のための投資を続けてまいりました。
このたび中期経営計画を策定し、
これまでの投資を収益化することで、
売上拡大を目指してまいります。

<https://www.toyo.co.jp/TY2021>



中期経営計画

TY2021

2021年9月期

連結売上高
260億円

連結営業利益
20億円

ROE
5.0%

今日も社会のどこかで東陽テクニカ

／ 当社の活動と社会の関わりについて、ステークホルダーの皆様にご覧いただくため、Webサイトを開設。

【コンテンツ紹介】

1. IoT教材による学校授業のイノベーション

理科離れを防ぎ未来の科学者を育てる“IoT教材を活用した教育”

2. 潜水艦探索への情熱にテクノロジーで答える

第二次世界大戦後に海没処分された潜水艦「呂500」の探索にエンジニアが参加



https://www.toyo.co.jp/social_contribution/



本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp